



全、資、仲第一八號

昭和一七一一六

(内布五号)

支那ノ物價對策

世界經濟調查會

金融研究部



支那ノ物價對策

(昭和一二七二、六)

目次

總

說

(一) 問題ノ性質ト扱方

(二) 中支物價ノ趨勢

(三) 物價昂騰ノ原因

(四) 物價對策ノ攻究順序

本

論

第一節 通貨面ニ於ケル物價對策

(一) 儲備券ノ安定及強化

(二) 財政及金融上ノ諸工作

第二節 物資面ニ於ケル物價對策

(一) 物價ニ對スル直接方策

(二) 物資ニ對スル直接方策

第三節 大東亞戰ト支那ノ物價

一頁

二頁

二頁

四頁

五頁

五頁

六頁

八頁

八頁

九頁

一一頁

支那ノ物價對策

總論

(一) 問題ノ性質ト扱方

支那ニ於ケル經濟工作ノ重點ハ今ヤ通貨問題ヨリ進展シテ物價問題ノ段階ニ入レリト謂フベシ。而シテ支那ノ物價問題ハ實ニ(一)支那ニ於ケル經濟建設及(二)民生ノ安定ニ重大ナル關係ヲ有スルノミナラズ更ニ(三)日本トノ關係ニ於テ其ノ日本物價ニ及ス影響(四)日本トノ資金及物資交流トノ關係(五)皇軍戰費トノ關係及日本ノ必要トスル資材ノ確保等ニ於テ頗ル重大ナル問題ナリ。

然レドモ物價問題ハ作戰關係、政治情勢、治安狀態等ト密接ナル關係性ヲ有スルヲ以テ之ヲ單ナル物價對策トシテ獨立的ニ攻究シ決定スル事ハ殆ド不可能ナリ。且又支那各地ハ夫々事情ヲ異ニシ殊ニ北支ト中支トハ通貨ノ相違其他ノ特殊事情存スルニヨリ支那物價問題

ヲ總括シテ取扱フコトモ亦困難ナリ。
 仍テ茲ニハ物價問題ヲ便宜上他ノ問題ト切離シテ一應獨立問題トシ
 テ取扱ヒ、又北支物價ニ就テハ暫ク論及セズ主トシテ中支ノ物價ニ
 就キ之ガ對策ヲ攻究スルコトトス。

(二) 中支物價ノ趨勢

支那事變以來物價ハ一貫シテ上昇ヲ辿レルモ特ニ昂騰顯著トナレル
 ハ昨夏以來ノ事ニシテ、昨年六月ノ米英資金凍結及ビ今年三月ノ儲
 備券ノ法幣等價停止及ビ其ノ後ノ通貨統一ヘノ準備ノ行程ハ中支物
 價ヲ急騰セシメル重大契機トナリ、本年五月末ニ於テ騰勢最モ激甚
 ヲ示シタリ。而シテ六月ノ通貨統一方策實施後ト雖モ物價ハ低下ヲ
 見ルコトナク、今日ニ至ルマデ上向ノ趨勢ニアルコトハ特ニ注意ヲ
 要スル所ナリ

(三) 物價昂騰ノ原因

中支ニ限ラズ北支モ共通シテ、支那事變以來特ニ最近ノ物價昂騰ノ

重大原因ハ凡ソ次ノ四點ニ存スト考ヘラル。

(イ) 舊法幣ノ下落——舊法幣ノ下落停止スル所ヲ知ラサル當然ノ結果トシテ法幣物價ヲ昂騰セシメタリ。且法幣物價ノ昂騰ハ我方圓系通貨即チ聯銀券並ニ軍票ニヨル物價ヲモ道伴レトシテ昂騰セシメ、今日ニ至ルモ尙此惡作用ノ持續セルコトハ否ム能ハズ。

(ロ) 物資ノ不足——輸入商品ノ停頓、現地方面ノ生産減退、奥地方面ヨリノ物資出廻ノ減少、市場ニ於ケル商品ノ退匿等ノ事態ハ支那事變以來ノ物價昂騰ノ強キ原因ニシテ大東亞戰以來特ニ顯著且深刻トナレル點アリ。

(ハ) 通貨ニ對スル不安及投機——舊法幣ニ對スル不信不安ハ勿論ノコトナルガ、特ニ注意スベキコトハ日系通貨及儲備券等ニ對シテモ一般大衆ハ其ノ價値ノ眞ノ斷絶ヲ察知シ難ク、從テ是等ノ通貨ハ其ノ實價ヲ十分ニ發揚スルコトナクシテ或ハ退藏セラレ或ハ投機目的トナリ、物價安定上ニ貢獻スル所少ク物價昂騰ノ消極的原因

ヲ爲セリ。

(二) 資金ノ遊休浮動——都市ニ集中セル遊休浮動資金ハ通貨價值ノ下落ト相俵チテ増加スル一方ノ傾向ナルニ拘ラズ、金融機關ニ對スル統制及資金吸收ニ關スル施策ノ有效ナルモノ未ダ之レ無キ爲メ、是等資金ハ換物運動或ハ投機ニ向ケラル、コトトナリテ物價昂騰ヲ促進セリ。

(四) 物價對策ノ攻究順序

茲ニ物價對策ヲ獨立のニ且中支ヲ主トシテ考察スルニ當リ、便利上次ノ三段ニ別チ各項ヲ順次檢討スルコト、ス。

- 1 通貨面ニ於ケル物價對策如何
- 2 物資面ニ於ケル物價對策如何
- 3 大東亞戰ト支那物價トノ關係如何

本論

第一節 通貨面ニ於ケル物價對策

(一) 儲備券ノ安定及強化

1. 儲備銀行及其ノ發券制度ノ強化——銀行ノ人的機構ニ就キ素質ノ改善強化ヲ圖ルコト、業務上ニ於テ中央銀行タル職能達成ニ適應スル如キ制度ヲ整備スルト共ニ他金融機關トノ緊密且圓滿ナル聯繫ヲ促進スル如ク措置スルコト、發券制度ニ於テ今後發行高ノ増大シ行ク趨勢ニ適應スル如キ方法ヲ確立實施スルコト等諸對策ヲ必要トス。

2. 儲備券ノ價値安定——

儲備券ハ結局日本圓ニ聯繫サルベキモノニテ、現在ノ軍票トノ比價ノミナラズ大東亞ノ通貨体制ニ照合シテ日本圓トノ比價ヲ定ムルノ段取トナルベク、而シテ儲備券ノ價値維持ニヨリテ民心ノ信賴ヲ強メ不自然ナル形式的比價ニ因リテ生ズル弊害ハ之ヲ防遏スルノ要アリ。

3. 儲備券ノ流通工作——

儲備券流通ノ促進ニハ其ノ用途並ニ地區ノ

二方面ニ於テ適當ノ階梯ハアルベキモ絶ヘサル努力ニヨリ堅實ニ擴大シ行クコトヲ要シ、我勢力地區ニ於ケル舊法幣ノ潜在ト濶取引ハ之ヲ徹底的ニ排撃スベク又舊法幣ニ依ル債權債務ノ存續ヲモ絶滅スベキモノナリ。

(二) 財政及金融上ノ諸工作

1. 新國民政府並ニ地方政府ノ財政ニ就キ体系ノ確立及歲計ノ強化ヲ圖リ豫算ノ編成並實行ニ當リテハ治安ノ維持ト經濟力ノ增強ハ其ノ重點タルベシ。

2. 各種金融機關ノ資金放出ニ付キ有效適切ナル資金運用ヲ期シテ統制方針ヲ確立シ資金放出面ヨリスル儲備券ノ強化ト物價ノ安定ヲ講ゼザルベカラズ、生産力擴充資金ノ供給ヲ圓滑ニスル一方不急專業及投機、思惑貫溜等ノ資金放出ハ特ニ警戒ヲ要ス。

3. 市場ニ於ケル遊休浮動ノ資金ヲ收收スル爲メ特ニ支那民衆ノ間ニ貯蓄ヲ奨勵シ、預金、保險、公社債、株式、富藏等ノ方法ニ依ル資金

ノ吸收ヲ圖ル等、種々ノ有效工作ヲ講ズベク、尙重慶政府ガ發行セ
ル公債ノ潜在ヲ排除スベキハ勿論、新國民政府ヲシテ一日モ早く其
ノ必要ニ應ジ公債ヲ發行消化シ得ルノ情勢ニ至ラシムベシ。

4. 從來ノ無統制ナル金融業ヲ管メルモノハ之ヲ整理統合シ、一般金融
機關ニ對スル中央儲備銀行ノ統制ヲ漸次強化スルト共ニ是等機關ノ
協力ト協調トヲ促進シ、現存スル手形交換所、銀行公會等ヲシテ充
分ニ其ノ機能ヲ發揮セシメ、又輿地ニ於ケル地場銀行支店ノ業務復
活ヲ圖ル外、合作社ノ利用等ニ就テモ適當ナル措置ヲ講ズルノ要アリ。

5. 日系通貨ノ賣買並ニ對日資金交流ニ關スル取締ヲ周到ナラシメテ現
地本位ノ資金計畫ヲ樹立シ、此ノ計畫ノ下ニ各地域間ノ通情安富ナ
ル資金交流及資金蓄積ノ方圖ヲ講ゼザルベカラズ。

6. 金利ノ適當ナル低水準ヘノ移行ハ望マシキコトナルモ、當面ノ物價
對策ヨリ見テ民族資金吸收上ノ必要等アラバ金利引上モ亦考慮シテ

可ナルベシ（生産原價ニ就テハ別途ノ方法ヲ講ズルヲ可トス）。

第二節 物價面ニ於ケル物價對策

一 物價ニ對スル直接方策

1. 物價ニ對シテハ現地ニ於ケル施策ノ必要性ト可能性ヲ基準トシテ重點主眼ニ依リテ成ルベク少數品目ニ對シテ公定物價ヲ定ムルヲ可トス。而シテ支那各地域物價ノ平準化ハ望マシキコトナレドモ、之ニ先チ各地ノ現在物價ニ一應安定傾向ヲ與フル必要アリ。

2. 物價ハ小賣、卸賣及生産費ノ三者ニ亘リ且資金、運賃等ヲモ考慮シテ綜合的一貫的ノ公定物價ヲ定メ其ノ間ニ不正利得ヲ狙フ餘地無カラシムル要アリ。而レドモ利潤ニ關シテハ支那人及支那市場ノ待遇ニ鑑ミ餘リ形式的公正公平ヲ狙フコトナク經濟活動ヲ抑壓セザル點ニ留意ヲ要ス。

3. 物價ノ安定ト其ノ支持ニ就テハ努メテ支那側ノ各種同業組合、商工團體等ヲ活用シ、且成ルベク支那側ノ有力者ヲ參加協力セシメル方

法ヲ採ルベキナリ。

々各種商品ノ取引所ハ弊害ト共ニ長所モ存スルヲ以テ、之ヲ巧ミニ活用シテ物價ノ安定ヲ圖ルト共ニ遊休浮動資金ノ吸收粒ニ利用ヲモ請ズベキモノナリ。

五北支トノ協力ニヨリ其ノ物價差異ヲ調整シ兩地間ニ於ケル物價ノ好マシカラザル交流ヲ防止セザルベカラズ。

(二) 物資ニ對スル直接方策

一市場ニ於ケル貯藏物資ヲ市場ニ出現セシメル方策ヲ採リ、且平衡倉庫ノ如キ制度ニヨリ市場ノ過不足物資ノ調節ヲ圖ル必要アリ。又之ト併行シテ買權メ賣權ミヲ嚴重ニ制壓スベキナリ。

二軍需其ノ他對日供給、生活必需、復興開發等ニ要スル物資ヲ主眼トスル生産ノ増強ハ現地物動計畫ノ骨子タルベク、從テ地場産業ノ振興ヲ圖リ占領地ニ於ケル各種ノ工場ニ就テハ具ノ復活ト復業トニ最

善ノ努力ヲ拂フベキナリ。是等休眠工場ノ再興ニ對スル支障ハ資金、

資材、經營當局者等ノ諸點ニ存スルナランモ、之ニ對シテハ資金ノ供給（特ニ民族資金ノ動員）、特殊資材ノ供與、日支合辦ノ新形式採用等種々ノ適當方策ヲ講ズベシ。

3. 我ガ占領地區内相互間ニ於ケル生活物資類ノ移動ニ對シテハ能フ限り其ノ圓滑ヲ圖ルベキナリ。

4. 敵地區内ノ物資ニ對シテハ作戰上支障ナキ限りニ於テ或ハパイタ方式ニヨリ、或ハ舊法幣拂出ニヨリテ我方ニ吸收スル方策ヲ講ズルノ要アリ。

又敵地區ノ物價高ガ原因トナリ或ハ敵側ノ謀略ニヨリテ我方物資ガ敵地ニ吸取サレザル様嚴重警戒スベキコトハ勿論ナリ。

5. 外地即チ滿洲及南方諸地域トノ物資交流ニ就テハ、他ノ事情ガ許ス限り假令少量ニテモ輸出入ノパイタ的交流ヲ圖リ以テ民心ノ安定ト物資ノ圓滑配給ヲ圖ル要アリ。殊ニ此ノ際南方ヨリスル物資ノ流入ハ當ニ物價面ニ於ケル對策タルニ止マラズ他ノ觀點ヨリ真ノ好影

響ヲ期待シ得ベキモノ蓋シ尠カフザルベシ。

6. 生産ノ増強、交易ノ促進ニ努メツツモ物資ノ補給ニハ自ラ種々ノ制約アルヲ以テ、一面民衆ヲ指導シテ物資ノ消費ヲ規正シ高效率の利
用ノ徹底ヲ期スルコト肝要ナリ。

第三節 大東亞戰ト支那ノ物價

大東亞戰ノ完勝ヲ期シテ日本及東亞各域ノ政治經濟百般ノ問題ヲ考慮シ制約スル必要アルコトハ論ヲ俟タザル所ニシテ、支那ノ物價對策モ亦此ノ觀點ヨリ攻究サレザルベカラズ。

而シテ大東亞戰ノ完勝ト支那物價問題トノ關聯ニ就テハ、(一)日本ガ必要トスル物資ノ獲得、(二)支那ノ物價情勢ガ日本(及ビ滿洲等)ノ戰時經濟體勢ニ及ボス影響、(三)對重慶戰ト我占領地ノ物價關係ハ最も重視サルベキモノナリ。

第一ノ對日物資供給ニ關シテハ支那現地ノ物價引下ハ必シモ有效對策ナリト謂ヒ難ク、餘リニ低物價政策ヲ強行シテ物資ノ出廻ヲ阻害スル如

キ結果ヲ招來スルコトハ深ク警戒セザルベカラズ。第二ノ日本（及ビ南
 洲等）ノ戰時經濟體勢ニ對シテハ支那各地ノ高物價並ニ通貨膨脹ガ惡影
 響ヲ及ボス虞レ多大ナルヲ以テ、此ノ點ニ關シテハ日支間ノ資金移動及
 ビ通貨比率ニ關シテ適當ナル措置ヲ講ズルト共ニ、支那ノ高物價ガ日本
 物資ヲ吸引スル如キ事ナキ様有效ナル對策ヲ採ラザルベカラズ。第三ノ
 對重慶戰トノ關係ニ於テハ敵地ノ物價高ガ占領地物資ヲ吸引スル如キ事
 態ヲ來サザルコトヲ嚴ニ防止セザルベカラズ。

大體スレバ中支（並ニ北支）ノ物價問題ハ兩頭ノ蛇ノ如ク低物價政策
 ノミヲ以テ處理シ難ク又物價ノ昂騰ハ極力阻止スル必要アリテ實際上ノ
 運用施策ノ妙論ハ單純ニ記述シ得ルモノニ非ズ、強テ其ノ要綱ヲ述ブル
 ナラバ物價ハ先ヅ安定ヲ主眼トシテ**施策**シ其ノ他ノ點ハ各種ノ重要目的
 ニ鑑ミテ夫々ノ必要ヲ充足スル如キ措置ヲ採ルベキモノトス。

尙現地ノ經濟問題ニ對シテハ權威アリ且成ルベク少數人員ヨリナル委
 員會ノ如キ組織ヲ以テ各方面ノ知能ト經驗トヲ活用スルト共ニ、重要方
 策ノ實行ニ就キ苟モ時機ヲ失セザルコト肝要ナリ。

以上